

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 (人づくり教育) 2 確かな進学指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育 (ユネスコスクールとして) の推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校評価委員 4名 事務局(教職員) 14名
-----	---------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 5 日 現 在 )	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○重点目標として「挨拶」「身だしなみ」「聞く姿勢」「けじめある行動」を意識させた学校生活と授業規律の展開を図っている。 ○文武両道を目指した部活動への参加と生徒主体の学校行事を推進しているが、いかにして多くの「達成感」を与えることができるかが課題である。 ○地域連携事業により社会とつながる場を推進する。	①生徒指導・人権教育の充実 ②学校行事・部活動の充実 ③地域、関係機関との連携	○挨拶、清掃活動、頭髪・服装等の基本的な生活習慣に係わる指導の徹底。 ○「生徒指導から進路指導」「授業規律の確立」をテーマに、授業姿勢に対する指導。 ○部活動、学校行事への積極的参加の奨励。 ○問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化。	○挨拶、身だしなみに対する意識が向上した。 ○チャイム授業等、主体的な学びができた。 ○部活動の加入率および参加・実績が向上した。また、生徒主体での行事運営ができた。 ○日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止に取り組めた。	①学校生活でリーダーシップを発揮する生徒が増え、主体的行動の印象が強くなった。(B) ②部活動において、全国大会への出場等で実績を残し、各部の活躍が目立ち始めた。(A) ③開放講座や小中高連携授業などに生徒が積極的に関わることができた。(A) ④日本テレビ「みんなのドラマ」を導入し、コミュニケーション能力を高めた。(B)	B
2	○進路実績を向上させるためには、一般入試を受験する生徒を増加させつつ、推薦入試をどのように活用させるかが課題である。また現状の学力で入ることができる上級学校を探す傾向にあり、志望校のレベルを下げない指導を行っていく必要がある。 ○生徒・保護者の意識を高めるために、資料配布や説明会などを計画的かつ継続的に実施し、キャリア教育を推進していく。	①進路実績の向上 ②キャリア教育の推進	○進路計画を配布し定期的に進路希望調査を行うことで、進路活動の見直しを持たせる。 ○各学年主任と連携。 ○センター試験出願指導の見直し。 ○コース制の状況に合わせた進路指導の実施。 ○生徒・保護者向けの説明会や進路行事の定期的開催。 ○大学入試改革への対応。	○四年制大学の進学率・難関有名大学への合格者数・国際学院埼玉短期大学への進学者数が増加した。 ○各学年主任と情報共有し、指導に当たることができた。 ○受験に向けて、全体で取り組む姿勢が見られた。 ○コースの特性に応じた進路指導を行うことができた。 ○進路行事を的確に実施することができた。	①四年制大学への進学希望率は現在73.2%で昨年度の進学率(63.8%)より高い。入学定員の厳格化など今年度も厳しい入試が予想されるので、引き続き指導を継続していきたい。(B) ①現時点で、明治・法政・東京女子・成蹊大学などの合格実績が出ている。(B) ②20期生においてライフプランの外部評価を初めて実施したが、概ね評価が高かった。(A)	B
3	○全生徒が伸びたと実感できる授業の確立に向け、教員研修の強化から日々の実践力向上を目指す。 ○中学校、高等学校の入学確保と女子志願者数の増加を図る。 ○学校ブランドの効果的発信に向け、広報媒体の全面的見直しを推進する。	①授業力向上 ②質の高い広報媒体の制作と展開 ③志願者数の増加	○相互授業見学・研究協議会、授業アンケートの実施。 ○HP、学校紹介ビデオのリニューアル。 ○パンフレット・ポスターの新規デザイン。 ○小学5、6年生対象プレテストの実施。 ○全員体制での計画的な広報募集活動。	○授業アンケートにおいて生徒の意欲が上がった。 ○HPの更新頻度と適切な情報提供ができた。 ○学校説明会、個別相談会が充実することで参加者の満足度が上がった。 ○校外での積極的な募集活動によって志願者が増加した。	①授業力を向上する必要性・重要性についての理解が浸透しつつある。(B) ②HP、パンフレット・ポスターの新規リニューアルを実施し、ドローンによる撮影動画の活用等、ネット媒体を積極的に活用できた。(A) ③4年連続、高校志願者数1600名超となったが、今年は1700名に届かず、中学志願者数は前年比60%の増加となった。(B)	B
4	○昨年度日本初となるIFWの開催で培った海外学校との交流を継続的に行っているのがESD教育のさらなる充実のため必要である。一方、ESD自体への理解が不十分なまま学校行事の一つとして取り込まれてしまう場面があり、課題として残る。	①英語教育の充実 ②継続的な学校間交流 ③ESD (国際理解教育) の推進	○英語を学ぶ機会の充実(英検、GTEC、英単語グランプリ)・KOKUSAI Method (英検Week)・入学前教育の取り組み。 ○国際理解を深める機会の充実(IFW (International Friendship Week)・異文化学習会・異国料理学習会・留学生の受入・海外生徒との交流・古着回収運動)。 ○ESDに関する講演や説明会の実施。	○各種検定試験の上位級受検者、合格者の増加につながった。 ○生徒が主体となるIFWの実施ができた。 ○学習会や交流に向け目的やESDへの理解を促し、意欲を高めることができた。 ○ユネスコスクールの理念やESDについて理解を深めることができた。	①英検準1級所有者1名、2級所有者28名、準2級所有者107名、GTEC500点以上の生徒数43名となった。(B) ②IFWにはイタリア・ホンコンに代表生徒を派遣し、ホンコンのポスターセッションでは最優秀賞を受賞した。(A) ③学校法人として国連グローバル・コンパクトに加入した。(A) ④モンゴル料理学習会を実施し、五峯祭で販売することができた。(A)	A

学校評価	実施日 平成31年2月21日
評価委員からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の目が行き届いた、少人数できめ細かな指導がなされている。</li> <li>・本校の特徴である、生徒を前面に出して行事を行っていることは、達成感・効力感の向上となり、もっとPRしても良い。</li> <li>・公立校では部活動のガイドラインが示されている。文武両道を推進するにあたり、国際学院としての部活動の指針を示し、文字通り実践していくことが重要である。</li> <li>・大学入試改革に対する取り組みや受験指導について、「いつ、何を、どのように」ということを、これまで以上に保護者に分かりやすく提示していく必要がある。そうすることで、本人や保護者もそれに沿った確認・準備ができ、更なる実績にもつながる。</li> <li>・卒業時の生徒の姿がわかるとよい。個々の生徒が何を目指し、どうなっていったのか。難しい面もあるが、その際、学力だけではなく、人間性も示せることが大切である。</li> <li>・授業力向上について、目標を掲げ取り組んでいることは素晴らしく、また、授業アンケートの結果が前・後期で改善が見られることも良い傾向である。</li> <li>・パンフレットやホームページのリニューアルは、周囲から好評を得ている印象を受ける。引き続き積極的な広報活動から、志願者増につなげることを期待する。</li> <li>・英検取得については、具体的に数値目標を掲げ、評価が明確かつ、どのように取り組んでいるか可視化していくと良い。</li> <li>・ユネスコスクールの交流に加え、国連グローバル・コンパクト加入、SDGsの取り組みと、これまで以上に増々、世界とのつながりを意識した活動が広がっている。海外との積極的な交流がもたらす好影響に期待したい。</li> </ul>